

## 国際会議報告

第1回国際急冷凝固材料会議  
出席報告\*

猶原 隆\*\*

1986年2月3日～5日の3日間、カリフォルニア州第2の都市であり、同州発祥の地とされるサンディエゴにおいて、第1回国際急冷凝固材料会議 (1st International Conference on Rapidly Solidified Materials) が開催された。この会議は American Society for Metals の主催によるもので、16か国から約170名の技術者、研究者が参加した。プログラムに記載された発表論文数は合計60編 (特別講演1件、口頭発表46件、ポスター発表13件) で、規模としては比較的小さな会議であつた。会場としては空港から車で4～5分の、サンディエゴ湾に面した Sheraton Harbor Island Hotel が使用された。立地条件が良いせい、Convention Center では本会議と並行して別の会議や研修会も開催されていた。筆者はたまたまこのホテルに宿泊したため、会場への移動に伴うわずらわしさを感じる必要がなかつた。毎朝ゆつくり朝食をとり、会議開始5分前におもむろに会場へ出向くという優雅な(?) 3日間を過ごした。

さて、会議の第1日めは8時30分より始まり、組織委員長である P. W. LEE 博士 (The Timken Company) の開会の挨拶に続いて、N. J. GRANT 教授

(MIT) による “Let's Rate Rapid Solidification Technology : Development, Trends and Bottlenecks” と題する特別講演が行われた。そして、9時20分からセッション I “Materials Production” の発表が始まり会議の幕があいた。以後3日間にわたつて、午前と午後1セッションずつのペースで順調に論文発表が続けられた。参考までに各セッションのテーマと発表論文数を示しておく。今回の会議では、これらのセッションの発表がすべて一つの会場で行われた。このため時間的な制約があり、ポスター発表を除いて詳細かつ突つ込んだ議論はあまり見られなかつたようである。しかし、午前のセッションが終了すると、出席者全員が別室に移動して揃つて昼食をとるといふ、こじんまりとした会議ならではの配慮がなされていた。この昼食の時間は、発表時にやり残した議論を続ける絶好の機会となり、あちこちのテーブルで熱心な討論の輪が広がつていた。本会議での発表論文の内容については、プロシーディング (Rapidly Solidified Materials, Ed. by P. W. LEE and R. S. CARBONARA, ASM) がすでに刊行されているので、これを参照していただきたい。

[問い合わせ先] Customer Service Department  
American Society for Metals  
Metals Park, Ohio 44073  
U. S. A.

最後に、本会議に対する筆者の印象を述べると、組織委員会のメンバーがすべて民間企業の研究者であつたこともあり、急冷凝固材料の応用、実用化にもつとも重点が置かれていたように感じた。非晶質材料が注目を浴びて以来、この研究分野は近年急速な発展を遂げている。したがつて、実用化のための開発研究が精力的に進められていることは、筆者なりに認識しているつもりであつた。しかし、本会議参加国とくに主催国であるアメリカの民間企業の意気込みと熱意は、筆者の想像を越えたものであつた。こうした企業サイドの開発動向の一端に触れることができ、大学に籍を置く筆者にとつてたいへん良い刺激となつた。今後の研究のためにも得がたい体験となつた本会議への出席は、日本鉄鋼協会第4回日方学術振興交付金のご援助によるものであることを付記する。

表1 セッションのテーマと発表論文数

	セッション	論文数
2月3日	特別講演	1
	I: 材料の作製 II: チタン, マグネシウム	7 8
2月4日	III: 非晶質材料 IV: 鉄, ニッケル, 銅 ポスターセッション	8 7 13
	V: アルミニウム VI: 応用ならびに実用化	8 8

\* 本国際会議出席にあつては、日本鉄鋼協会日方学術振興交付金が賦与されました。

\*\* 愛媛大学工学部